

【所属教員】

教授・・・臼井 真一(うすい しんいち)

講師・・・下廣 寿(しもひろ ひさし)

【大学院生】

M2 前川 涼

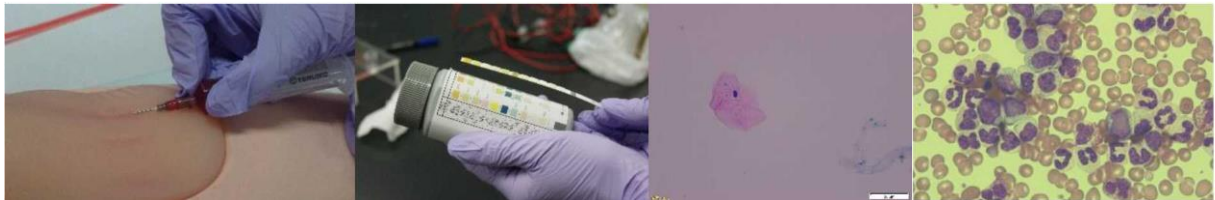
【研究テーマ】

1. 可溶性 LDL レセプターの臨床的意義に関する研究(臨床研究)
2. 非アルコール性脂肪肝疾患(NAFLD)の発症メカニズム(動物実験, 細胞培養実験)
3. アポE含有HDLとメタボリックシンドロームの関連(動物実験, 細胞培養実験)
4. 血液疾患の早期診断技術の開発

【教育内容】

「臨床化学検査学」、「臨床化学・免疫検査学実習」、「検体検査学」、「検体検査学実習」、「病態血液学」、「病態血液学実習」、「輸血・移植検査学」、「輸血・移植検査学実習」、「臨床病理学概論」、「予防検査学」、「課題研究」、「臨地実習」

実習科目には積極的に実技試験を導入しています。



採血

尿化学検査

尿中の細胞観察

血液細胞

【課題研究内容】

コレステロールやトリグリセリドなどの脂質は水に溶けないため、血中では蛋白質との複合体であるリポ蛋白質(lipoprotein)として運搬されています。血中脂質の増加は血管を詰らせる原因の一つと考えられており、動脈硬化や冠動脈疾患などのリスク評価として脂質検査があります。また、リポ蛋白質異常は運動不足や食生活の乱れにより生じやすく、糖尿病、肥満、脂肪肝、メタボリックシンドロームなどで高頻度に認められます。リポ蛋白質は脂質や蛋白質の組成が異なる多くの種類(HDL,LDL など)があり、それぞれのリポ蛋白質は異なる役割を担っていると考えられています。当研究室では、これらリポ蛋白質の新しい分析法の開発や臨床的意義の検討、リポ蛋白質代謝に関する研究を行っています。

【過去の課題研究テーマ】

- 培養肝細胞のリポ蛋白産生に与える脂肪酸の影響（2023 年度）
- 血中可溶性 LDL 受容体と脂肪肝との関連（2022 年度）
- 肝臓の脂肪蓄積と可溶性 LDL 受容体の関連性について(2021 年度)
- Cross-Mixing Test における凝固因子 Inhibitor 擬似試料の検討(第 2 報)
- Cross-Mixing Test における凝固因子 Inhibitor 擬似試料の検討
- Cross-Mixing Test における凝固因子欠損擬似試料の検討
- 血液型判定に応用できる食物レクチンの検索
- ヒト便中の長鎖脂肪酸解析
- ブロッコリー茎の腸管免疫に対する影響についての検討
- 健常学生における味覚感受性とその関連因子の検討
- 30 分間のウォーキングにおける血中・尿中可溶性 LDL 受容体濃度の変動
- 血中可溶性 LDL 受容体の臨床的特徴と食事の影響についての検討
- 同一採血部位の血糖値が SMBG 機器と標準化対応法で乖離した原因の検討
- 低温環境からの復温過程が自己血糖測定に及ぼす影響の検討
- 血糖自己測定機器の保管温度が測定値に与える影響の検討

これまでの課題研究では血液検査や自己血糖測定に関連した内容を多く取り上げてきました。

【2024.4.1 更新】